



今夜(9月26日)は大使公邸でピアノのミニ・コンサートを開催しました。

サンチアゴ・デ・コンポステーラと京都を拠点とするプロの作曲家・ピアニストKさんが、スペインから日本への一時帰国の途中、ヘルシンキに立ち寄ってくれたのです。

暖炉の薪に火を焚べた部屋で、元日本留学生たちとピアノの調べにゆったり耳を傾けた夕べでした。

外交官として、芸術文化の分野で活躍する素敵な方々と交流出来るのはとても幸運だと感じています。

Kさんとは前任地で知り合い、コンサートやオンライン行事などを通じてやり取りを続けさせて頂きました。前回のトロピカルな舞台から一転して、もう寒さを感じるようになったヘルシンキで、また迫力あるライブ演奏を聴けてとても嬉しく思いました。





前任地では、東京藝大から日比野克彦教授(現学長)のプロジェクトで、若手アーティスト3人がビエンナーレと言う国際芸術祭へ派遣されて来ました。そのうちの一人 Tさんが先日日本からヴァンター空港に到着しました。首都から遠く離れたアーティスト村で12月まで制作活動をする予定です。Tさんもトロピカルから Nordic へとガラリーと所を変えます。Tさんの専門は、テキスタイル素材・技法によるミシンでの作品制作。ワークショップも予定しているそうです。きっとフィンランドでより多くを学び、また交流を実践する数ヶ月になる事でしょう。





(写真提供: Tさん)

もう一人、クラシック・ギタリストのMさんを挙げさせて下さい。やはり私の前任地にプライベート旅行で来て、でもその機会に今夜と同じく元日本留学生たちに美しいギター演奏を披露してくれました。忘れ難いクリスマスの夜になりました。

あいにく現在Mさんは健康上の理由でお休み中です。せめてお守りを送ろうとしましたが、大使館の秘書さんから、フィンランドには日本のようなお守りはないと言われました。そこで大聖堂で蝋燭に火を灯してMさんの健康回復を祈って来ました。きっと良くなって、出来ればこの国でまたあの素晴らしい音楽を聴かせて頂ければ、と切に希望します。

芸術文化を通じる交流は、直ぐには何か成果が目に見えなくとも、中長期的には必ず日本とフィンランドの人々をより近づけるものと信じています。

2022年9月

駐フィンランド大使 藤村和広